



# 諏訪ユネスコ通信

諏訪ユネスコ協会

第 8 号

発行日

平成 25 年 10 月 31 日

発行者

諏訪ユネスコ協会

編集委員会



諏訪大社前宮

挿絵: 谷澤信喜

諏訪大社は長野県の諏訪湖の周辺に 4 か所の境内地をもつ神社です。歴史は古く古事記の中では出雲を舞台に国譲りに反対して諏訪までやってきて、そこに国を築いたとあり、日本書紀には持統天皇が勅使を派遣したと記されています。

前宮は諏訪大社の祭政一致時代の古体の跡を示している最も由緒ある史跡で、前宮御本殿は内御玉殿から 200m 程上段にあり、古くは神殿に附属したお社です。

高台にあり豊富な水や日照が得られる良き地で、建御名方神が最初に前宮に居を構えられた、諏訪信仰発祥の地と伝えられており、上社にとっては最も由緒深いところです。

現在の社殿は昭和七年伊勢の神宮の御用材で建られたものです。

## 諏訪ユネスコ協会役員執行体制について

会長代行 牛山 俊

去る、平成25年6月9日に原 清会長がご逝去されましたので、当協会の執行について、6月28日開催の理事会で協議し、当分の間、3名の副会長がその任務を代行することとなりました。

代行に当たっては、会則の規定により、その順位を定めることとなっていますので第1順位・牛山 俊副会長、第2順位・高林徳枝副会長、第3順位・濱善夫副会長と決定し、現在は牛山 俊副会長が会長代行を執行しております。

会員の皆様の一層のご指導、ご協力をお願いします。

### 地域実践部会

### 諏訪湖アダプトプログラム・諏訪湖畔の清掃実施



H25.8.29

地域実践部会は平成25年度事業「諏訪湖アダプトプログラム・諏訪湖畔の清掃」第2回を8月29日(木)午前9時より会員19名が参加して実施した。

芝生の場所にタバコの吸い殻が多く、子供用の花火のカスも多かった。

物陰にレジ袋に入った弁当のカス・飲み物・缶等が6袋もあった。

回収量合計は可燃ゴミ3袋、不燃ごみ1袋であった。

第3回「諏訪湖アダプトプログラム・諏訪湖の清掃」は10月26日(土)午前9時より行われた。

台風27号襲来の影響を受け、風雨の強い悪天候の中、会員15名の参加により実施された。

風により湖畔に打ち寄せられたプラスチック製のゴミ、ペットボトル等を回収した。



H25.8.29



H25.10.26



H25.10.26

## 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」開催

平成25年(2013)9月14日～15日、東京都目黒区「めぐろパーシモンホール」にて開催され、全国各地から600名近くの会員が参加、当協会からも10名が参加した。



第1日目は基調講話「次世代に引き継ぐ魅力あるユネスコ活動の展開に向けて」と題して松田昌士連盟会長の講話を聴いた。

続いてのプログラム・報告「ありがとう。そして、これからの絆へ」と題し、宮城県気仙沼市立気仙沼中学校の生徒2名(姉妹)とその父親・東北学院高等学校生徒・岩手県宮古市立田老第一中学校校長から日本ユネスコ協会連盟で行っている「ユネスコ協会就学支援

奨学金」の支援を受け、夢に向かって一生懸命頑張っている近況報告を聞いた。又、震災体験を悲しい記憶にとどめるのではなく、風化させないためにも、後世に語り継ぐ活動に取り組みはじめたと報告された。

目黒ユネスコ協会青年部の青年より被災地支援を経験した報告がなされた。

「震災支援からの学びを明日につなげるために」をテーマにパネルディスカッションがコーディネーター・見上一幸氏(宮城教育大学学長)、パネリスト・秋元厚子氏(釜石ユネスコ協会会長)、岩本渉氏(文部科学省国際統括官付国際交渉分析官)、鈴木靖浩氏(日本テトラパック株式会社常務執行役員)、星野和香子氏(環境維新隊東京ユネスコクラブ副理事長)により行われた。

「未来世代に対する現世代の責任」とは何でしょうか。

官・民・産・学、それぞれの立場から、震災から何を学び、今後につなげていくべきかを参加者と共に考え、議論をした。

第2日目は千玄室氏による「私たちが次世代につなげ、残すべきこと」と題した特別講演が行われた。

全国大会10回出席者表彰が行われ多数の方が表彰された。

被災地の子どもたち応援チャリティー抽選会が行われ、抽選券の販売収益の全額が「ユネスコ協会就学支援 奨学金」へ募金された。

次回の全国大会開催地は北海道「知床」で開催される。知床ユネスコ協会から挨拶があり、本大会が閉会された。



# ユネスコ全国大会に参加して

理事・北原國男

今年、初めて全国大会に参加しました。

全国各地から大勢の会員が参加して盛大に開催されましたが、これ程広く活動されている事に感心しました。

また、多くの会員が 10 年連続参加で表彰されたが、これも感心した一つでした。

今年は、一昨年(2011)年の 3 月 11 日の東北大震災により被災した多くの皆さんが懸命に復旧・復興に取り組んでいる姿の発表があり、特に小・中・高生が大きなショックと不幸を乗り越え、未来の希望に向かって胸を張って前向きに取り組む姿は胸を打たれました。

その夜は、新宿の居酒屋で諏訪からの参加者一同に会して懇親会を行い、賑やかなひと時を過ごすことが出来ました。

こんな楽しい時間を過ごせる自分達がいるのに比べ、戦禍に混じえ難民生活を余儀なくされている中東エリア地域があること・また、飢餓に苦しみ明日の命も定まらない多くのアフリカ地域の子供達がいること等々が一瞬、頭をよぎり忸怩たるものを感じざるをえませんでした。

一日も早い東北の復旧・復興と、豊かで平和な社会が来ることを願うばかりです。

★原会長逝去の報に接し、諏訪ユネスコ協会発足にご指導ご協力をいただいた尾花珠樹様より丁寧なお手紙をいただきましたので掲載いたします。

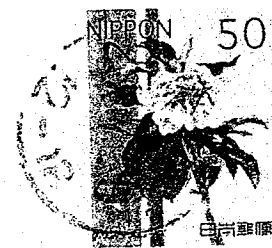
貴会報 №7号 拝受いたしました。郵便はがき  
 致上、原清会長ご逝去の報に、とくに「措別々急」の文に、しばし目を肉じ、原会長の新生・諏訪ユネスコ協会ご創建に尽くされたご熱意に想いは尽せ、ご冥福をお祈りいたしました。来春、鎌倉の中部事務所に原会長をお迎えるのを楽しみにしております。残念ではありません。原会長がお話になられた志士、同志の会量諸氏が立派に引きつがれたご意志を、紙面を拝見し、何回も總會報告を拝見いたします。鎌倉ユネスコ協会

392-0131

諏訪市 湖南 4418

諏訪ユネスコ協会

役員 皆さま 様中



尾花珠樹 2013.7.8.

「私たちが次世代につなげ、残すべきこと」

国際連合親善大使、UNESCO親善大使、日本ユネスコ協会連盟特別顧問

千 玄室 氏



講演要旨

私は昔からユネスコに関係していて 30 年前は国内委員だった。爾来、今日まで様々な分野でかかわらせてもらっている。

一昨年国連の事務総長が来日された折、一椀のお茶を差し上げたところ大変喜ばれ、人間同士のお付き合いがとても大切だと痛感した。

親善大使として年間3~4回本部をはじめ、各地に出かけることがある。

つい先日、3日間パリの本部で親善大使会議があった。その時、私は日本を代表して多くの方々からこの震災に対して大きな支援をいただきお礼を申し上げた。

また様々な問題について討議をした。今回世界遺産として富士山や三保の松原が認定された。現在世界遺産に対して大きな関心が高まってきている。

6月の総会では世界遺産の意義について、もう一度考え直さなくていけないのではということが議論された。

特にその遺産が単に景観ということだけでなく歴史的意義をもっているかどうか、またその遺産をどのように次の世代に引き継いでいくかが大きな問題だ。

世界223箇所に世界遺産があるが、中にはシリアのように内戦で遺跡が全部破壊されている。タイの大洪水ではアユタヤの遺産がほとんど壊滅的状态になっている。

国に予算もないので修復まで至らない。内戦、地震、大洪水などで大切な遺産が流失してしまっている。

しかし、日本は官民が協力して徐々に復興している。世界では国の方針、国の持っている力によってそういう復興が早急に出来るかどうかの問題である。

もう一つの問題点は世界遺産が観光的目的になっているという点で、ユネスコでは遺産と観光は一緒のものとは考えられない。世界遺産を売り物にするということは許されない。

後進国では世界遺産に指定されると少しでも経済的効果をあげようとする。

世界遺産を維持していくためにどうしたらいいか。

国に予算がなければユネスコが支援しなくてはならない。でもなかなかお金が出せない。これをどう解決していけばよいか。

また遺産の環境が整っているかという点も問題だ。そしてこれを次の世代にどのように確実に引き継いでいくか。ここで引き継いでいく子どもたちの問題を考えたい。

先進国とそれに続く国、それに後進国と3つの段階に分かれる。その3つの段階の中でも教育制度は格差がものすごい。

先進国では、これでもか、これでもかとたくさんのメニューが用意されている。そして指導者も多い。しかし、中以下の国々では先生の給料が低いから教える気力がない。先生がどんどんやめていくのが現状。

よその国々は曖昧模糊でどうでもいいや、という制度になっている。教育の中身が充実していない。アフリカ・中南米の諸国などの子どもたちは行き場がない。

それに比べ、日本の組織は学校と家庭が表裏一体でアメリカのようによく出来ている。

3日間の会議の中で子どもの未来について話し合った。

世界遺産や科学技術がどうのこうのと言う前に、子どもをどう育てるか親自身がしっかり考えなければいけない。

私は中央教育審議官を4年間勤めた。

私たちは戦前に教育を受けた。中学校、女学校5年間。専門的なことを学びたい人は専門学校へ。今の短期大学にかわるものが旧制の高等学校。

その5年間で先輩たちから身についた学問を教えてもらった。先生方も情熱を持って教えてくれた。

当時ドイツ語とフランス語の2クラスがあったが、私はドイツ語をとった。この時も辞書を引いたり、先輩から教えてもらった。やはり学問をする上でこうした努力が必要。

ユネスコは将来、科学、教育、文化が大切であり、人間の教養、内容が大切である、ということでフランスに本部が置かれた。

それからずいぶん歳月が流れた。私はユネスコの本部へ年3回くらい行かなくてはならないが、毎回感じることは、教育の見直しをしていくということである。

非行少年の問題に関して言うと、親の問題だ。経済的に大変だから親が働きに出る。親が働いている間に、子どもたちが学校へ行かず自由奔放。こうした子どもたちをうまく育てていかなければいけない。子どもたちを把握するということが非常に難しい。

家庭でも学校でもこのような子どもたちをうまく育てられない、どうすればいいか。

少年補導委員会が初めて発足したのは京都だ。学区単位に少年補導委員会が設置されている。そこへ親のボランティアが任意で加入し、狙いは非行少年を防止すること。だから京都は非行少年の割合が低いが大阪や神戸は多い。

その後、少年補導委員会が東京をはじめ各国へとその制度が広がってきているので、そういう制度をもっと広げていきたい。そうしないと次の世代へバトンタッチできない。

子どもに夢を持たせていくことが大切で、是非ユネスコに関心を持ってもらいたい。

ユネスコを文化遺産ばかりでなく、もっと広く捉えていきたい。

12月には和食の文化遺産を申請する予定、食は各国それぞれ違う、食の遺産は難しい。テキサスで驚いたのはホテルで簡単なすし屋があった。

そのメニューに天ぷら寿司と書いてあった。職人は現地の人で、すしのにぎりの上に天ぷらをぽんと載せて提供。これが日本食だと思われては情けない。醤油や味噌は元を言えば中国から入ったもの。米も中国、渡来人から学び、日本のものにしてきた。言葉もしかり。

こうして日本の文化が定着してきた。

このすばらしい文化は単に経済力だけでなく、それを支えている精神力というものが重要。これが日本の存在価値。そういう存在価値を今の若い人たち、子どもたちにもっと知らしめていくことと同時に啓発、創造、そして実行力、この3つの力をいろいろな機関で育成していかななくてはならない。

これは政府だけの問題でなく、やはり民が一緒になって考えて実現させていかななくてはならない。

2020年にオリンピックが東京へやってくる。そのオリンピックを支えていくために、我々はチャンスをつかまえて、世界にいろいろなことを発信していかななくてはならない。

若い人の希望とチャンスがあと7年後に来ることになるので、そういう機会を皆様方がぜひ捉えて、ご支援いただけるとありがたい。

(要約文作成・理事 矢崎靖雄)

## 理事会報告

第22回 理事会 平成25年6月4日(火) 午後7時 於;事務局

1. 理事の顔合わせ
2. 「平成25年度諏訪ユネスコ協会定時総会」反省点
  - ・懇親会の行い方の検討が必要(曜日・飲食形式・その他) 次年度の課題とする。
3. 「懇親会会計報告」……事務局次長より報告があり承認された。
4. 「諏訪ユネスコ協会」会員の確認
  - 1) 各地区退会者の確認
  - 2) 新規加入者募集について
5. アダプトプログラムについて
  - ・本年度第1回6月13日(木) 午前9時より実施の確認をした。
6. 「地域遺産部会」より本年度の事業計画について
  - 1) 各市町村における文化活動の状況
  - 2) 各市町村における自然観察会等の行事予定把握
7. 今年度の行事予定……各部会で検討する旨要請。

第23回 理事会 平成25年6月28日(金) 午後7時 於;事務局

1. 原清会長の死去に伴う執行体制について
  - ▶ 葬儀の対応及び経過報告  
死亡:平成25年6月9日 通夜:平成25年6月10日 葬儀:平成25年6月11日。
    - ・葬儀は家族葬にて執り行われた。
    - ・通夜見舞……6月10日午後5時 於:えこーホール  
三役が出席し、通夜見舞を行った(見舞金は諏訪ユネスコ協会より2万円)。
  - ▶ 会長代理として牛山 俊副会長が執行する事を承認。
  - ▶ 原会長の死去に伴い諏訪市より1名の理事を補充することを決めた(高林副会長に一任)。
2. 会費納入通知について
  - ・納入期限は7月末とする。
  - ・振込用紙での納入については郵便局の名義(会長名)変更後とする。
3. 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」参加について
  - ・申し込みの確認と参加者依頼の確認……責任者は濱副会長。
4. 「諏訪ユネスコ通信」発行について……平成25年6月30日 第7号発行と決める。
5. その他
  - ・「地域遺産部会」より、今年度の活動、講演等適当と思われる内容があったら提案してほしい旨の要請がされた。

第24回 理事会 平成25年7月12日(金) 午後7時 於;事務局

1. 理事の選任……金子勝弘会員の理事選任が提案され承認された。
2. 会計の選任
  - ・黒河内永子会計が一身上の都合により会計職ができない旨の申し入れがあり、小口智達会員が選任され承認された。
3. 「諏訪ユネスコ協会」会費納入について
4. 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」参加について

- ・日 時.....平成25年9月14日(土)・15日(日)1日目—12時30分より。
- ・場 所.....「めぐろパーシモンホール」
- ・参加者.....牛山・高林・濱・矢崎・小口・降旗・清水・北原・横森・安藤。
- ・宿泊場所.....「サンメンバー東京新宿」

第25回 理事会 平成25年8月5日(月)午後6時30分 於;「ザ・ピアノマン」

1. 「諏訪ユネスコ協会」年会費納入状況
  - ・最終納期は8月15日に延長。
  - ・賛助会員については事務局より振込用紙を挨拶状同封の上発送。
2. 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」参加確認
3. 「諏訪ユネスコ協会」今後の予定
  - ・会費の納入状況により会員の把握し新会員の勧誘、各部会の体制作り等検討する。
4. その他
  - ・「地域実践部会」よりアダプト活動の参加要請。日時—8月29日(木)午前9時より。

第26回 理事会 平成25年9月6日(金)午後6時30分 於;事務局

1. 「諏訪ユネスコ協会」年会費納入状況.....予定期限迄に納入済みが確認された。
2. 「諏訪ユネスコ協会」退会者について.....現時点での退会者の確認が行われた。
3. 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」参加について
  - 1) 日程の確認
  - 2) 初日の交通機関について
  - 3) 費用について
4. その他

- ・「地域実践部会」よりアダプト活動の参加要請・日時—10月26日(土)午前9時より
- ・新会員勧誘の必要資料を次回理事会までに事務局で準備する。

第27回 理事会 平成25年10月7日(月)午後6時30分 於;事務局

1. 「第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」の報告
 

《 出席者の感想 》

  - ・全国的なユネスコ活動の実態が分かる内容も欲しかった。
  - ・各地区の教育委員会がもっと力を入れて欲しい。
  - ・会員の高齢化が問題点。
2. 新入会員の募集について
  - ・事務局で準備した資料を持参し勧誘を行うことを決定。
3. 各部会の報告等について
  - ・広報部会.....「諏訪ユネスコ通信8号」を10月末発行。
  - ・寺子屋部会.....本年度も「書損じハガキ」の回収を行うことを決定。
  - ・地域実践部会.....アダプトプログラム実施—10月26日(土)午前9時より。  
全会員に参加願いのハガキを出すことを決めた。
  - ・地域遺産部会.....今年度の講演会について検討した。
4. 各部会編成について
  - ・会員の状況を把握し、編成の見直しが必要ではないか。
5. 「諏訪ユネスコ協会」会費の納入状況
  - ・会員は全員納入済み。
  - ・賛助会員の未納者の再度確認を行う。